

# 視点

## 県医師会長4期目を迎えて



福島県医師会会長

高谷雄三

平成28年6月5日(日)、福島県医師会館で開催されました第144回福島県医師会定例代議員会で、県医師会長に信任・再選されました。4期目を迎えます。また、6月25日(土)には、日本医師会館で開催されました第137回日本医師会定例代議員会において日本医師会理事に選定されました。会員の皆様には引き続きよろしくお願い申し上げます。

会長職3期6年の間には色々な出来事がありました。平成23年3月11日に東日本大震災、翌日東京電力福島第一原子力発電所事故が発生し、家族を失い、住むところを奪われ、学校・友人・職場環境を失い、避難所生活を余儀なくされ、放射線の子供への影響を考え、県外・県内への避難者が続出し、未だに元の平和な生活に戻ることが出来ません。3年目・4年目・5年目・6年目の間に復興基金、再生基金など相双・いわき方面の被害が甚だしかった地域を中心に予算は付いたものの、医療関連職の避難・離職者数が発災以前に戻る環境には無く、救急医療を含め外来・入院等

の住民の健康・保健・福祉の体制は依然整っておりません。放射線の影響が排除され安全・安心で暮らせる経済的に安定した生活が取り戻される迄どれ位掛るのでしょうか。此処までは就任6年間の出来事のおさらいです。誌面が少ないので現在抱えている課題を列挙していきます。

### ☆県民健康調査の継続

福島県が県立医科大学に委託して実施している県民健康調査も5年が経過し、今年3月には県民健康調査検討委員会においてこれまでの中間とりまとめが行われました。この中では将来にわたる県民の健康維持、増進のために調査を引き続き実施していく必要があるとされておりますので、県医師会においても甲状腺検査を円滑かつ適切に実施できるよう引き続き超音波検査講習会や検査者認定試験等について会員の皆様の御協力をいただきながら取り組んでまいります。

### ☆地域医療構想(ビジョン)の策定

福島県では、年内を目途に地域医療構想の

策定作業が進められております。団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けて本県の医療需要がどのように推移していくのか、またその医療需要に応じるための医療体制（高度急性期、急性期、回復期、慢性期の各病床及び人的体制）をどのように整備していくのか、県医師会としては、地域で真に必要とされる医療体制がしっかりと確保されるよう福島県医療審議会等を通じて意見具申を行うとともに、地域医療構想調整会議に参加される郡市地区医師会とも連携を図りながら取り組んでまいります。

#### ☆地域包括ケアに向けた取り組み（医療関連多職種連携）

地域医療構想と並行して、2025年を目途に地域包括ケアシステムの構築にも取り組んで行かなければなりません。高齢者が住み慣れた地域で自立して生活を営む際に特に医療や介護サービスは不可欠のものであります。かかりつけ医の普及による在宅医療の強化や切れ目のない医療・介護サービスを提供するための多職種連携の推進にも力を入れてまいります。

#### ☆予期せぬ医療事故調査制度の取り組み

昨年10月に医療事故調査制度がスタートしましたが、福島県医師会では医療事故調査等支援団体として登録するとともに、県内の他の支援団体と協議会を設置し、横の連携を図っているところです。これまで本会には2件の事故報告が寄せられおり、その医療機関の院内事故調査委員会に対して専門家の派遣等を行っているところです。制度がスタートして日が浅く事例も少ない状況にあります。『医療の安全確保と医療事故の再発防止』という制度の目的に沿ってしっかり取り組んでまいります。

#### ☆県医師会ホームページ（HP）のリニューアル

当会のホームページのリニューアルを図り

ました。今回のホームページの特徴は、会員専用ページの「文書管理システム」を全面的にリニューアルした点です。従来の文書管理システムでの標題だけの一覧ではなく、文書毎にある程度のサマリーを表示しますので文書の内容が把握しやすく必要な文書の選別が容易となります。また、携帯端末、スマホ、タブレットPCなど様々な端末に合わせ画面が変化しますので、常に見やすい画面構成となります。会員専用ページには、新たに会員の先生方のご自慢の写真を投稿できるギャラリーも設置する予定です。

#### ☆福島県医師協同組合設立、(株)メデサからのスムーズな移行

今年の4月1日、福島県の認可を得て福島県医師協同組合を設立いたしました。また、去る6月5日、福島メデサの株主総会において7月末日の会社の解散が決定されました。これは、平成3年、従前の互助会組織が解散し福島メデサが誕生した時と同じように、会員の減少や高齢化等による事業規模の縮小を打破するために事業を大きな組織に移行させ、そのスケールメリットによりサービスの向上（高割引率な保険料、サービス品目の拡大など）を図ろうとするものであります。現在、福島メデサの事業の移行作業を進めており、準備ができ次第会員の皆様にお知らせいたしますので、当組合への参加についてよろしく願いいたします。

#### ☆福島県医療福祉情報ネットワークの普及、ICT技術を駆使して

福島県医療福祉情報ネットワーク協議会が取り組む医療情報ネットワークシステム（通称「キビタン健康ネット」）は、平成26年度、27年度の2年間で「連携ゲートウェイ」や「ASP型電子カルテ」など全县をカバーするネットワークの基盤の整備を完了し、本年度より本格稼働の運びとなりました。また本年度は、平成28年度診療報酬改定によりキビタ

ン健康ネットを利用し、「検査・画像情報提供加算」や「電子的診療情報評価料」などの算定も可能となっております。今後は、「ASP型電子カルテ」を希望されなかった医療機関にも参加を呼びかけるなど、ネットワーク会員の一層の拡大を図ってまいります。

#### ☆システム改革・組織改革・意識（心）改革

私は、これまでの会長職にあって、特に4年目からこの改革三本柱に力を入れて取り組んでまいりました。県医師会という組織が常に外に目を向けながら自己改革に努めていかなければ、日々変化する社会制度や県民の期待に適切に対応できないと考えるからです。改革三本柱に終期はありません。この改革を更に進め、県医師会全体の機能を高めてまいります。

#### ☆医療関連他団体との連携

今、県医師会は、会が単独で実施する事業の他に、県行政、県立医科大学、県警察本部さらには県教育委員会などと密接に連携しながら県全体として推進する施策があります。（例えば、若手医師の育成、県民健康調査、

A i、学校保健など）これらは県医師会が関わることで大きな効果を上げておりますが、そのベースには、関係機関・団体等との日常における顔の見える関係づくりの積み重ねがあります。これからも関係機関や団体との懇談の場を多く設けて連携強化を図ってまいります。

#### ☆心の医師会・心の医療

#### ☆好かれ、親しまれ、信頼され、尊敬される 医師・医師会を目指して

今後、少子高齢・人口減少社会が進行していく中で、地域医療の担い手集団である県医師会に対する県民、行政等からの期待やニーズは、ますます高まってまいります。こうした期待に県医師会が自らの役割としてしっかり応えていく心構えとして、私は、これまでモットーとしてきました「☆心の医師会・心の医療 ☆好かれ、親しまれ、信頼され、尊敬される医師・医師会」を目指して取り組んでまいります。会員の皆様には、県医師会運営に対する特段のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。